

令和 6 年度

「運営に関する計画」
(中間評価)

大阪市立 橘小学校

令和 6 年 4 月

大阪市立橘小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。 ○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
<div>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</div> <div>○みんなで楽しく学校生活を送るために、学校のきまりを理解し、守ることができるよう、計画的に取り組む。</div> <div>○「生活ふりかえりカード」にて明らかになった問題に関する啓発や、児童による点検活動など主体的に行動できるように計画する。</div>		B
<div>指標</div> <div>○各学級に「学校のきまり」を掲示し、学期ごとに振り返りや確認を行う。</div> <div>○「生活ふりかえりカード」の取組を年間3回行う。</div>		
<div>取組内容②【2 豊かな心の育成】</div> <div>○すべての教育活動を通じて、「自分も人も大切にすること」を意識し、子どもの自尊感情を高める。</div> <div>○いじめを許さない心を育てるために、児童会を中心にいじめ（いのち）について考える日等の集会活動に取り組む。</div>		B
<div>指標</div> <div>○校内の児童アンケートにおいて「自分には、よいところがあると思う」の子どもの肯定的な回答の割合を86%以上にする。</div> <div>○校内の児童アンケートにおいて「自分も人も大切にしている」の子どもの肯定的な回答の割合を96%以上にする。</div> <div>○いじめに関する代表委員会を中心とした集会活動に年1回以上取り組む。</div>		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		

① 始業式や終業式などの学期はじめや終わりの際に、学校内外で安全に過ごすために一人一人のとるべき行動について考える時間を設けている。また、「学校のきまり」を掲示するとともに、学年やクラスでは「なぜダメなのか。」「なぜきまりを守らなければならないのか。」などを振り返り、きまりを守ること、ルールの大切さについて指導している。長期休業の前には「夏（冬）休みの生活について」を配布し、安全に生活できるよう注意を促している。「生活がんばりカード」を活用し、児童会を中心に集会で取り組んだりや改善点をまとめて発表したりしている。その結果、生活がんばりカードの集計結果をもとにして、児童会が中心となり「廊下を歩こう週間」を実施し、多くの児童が安全に生活できるようになった。

② 道徳の学習をはじめとして、様々な教育活動の中で、児童一人一人がつながる「なかまづくり」が深まることを目指して取り組んでいる。「いじめ・生命について考える日」には代表委員会を中心となっていじめについて考える集会を実施した。また、外部機関の講師を招いて、5・6年生を対象に「折れない心を育てる～いのちの授業～」を実施した。一方で、校内アンケート結果等から、友だちや人の事は大切にできるが、自分のよいところを見つけたり、大切にしたりすることに課題が見られる。

次年度への改善点

① 今後も学期の節目や必要に応じて、学校全体やクラスごとに学校のきまりについて児童に周知するとともに、安全・安心な生活を送るために児童一人一人に考える時間を設ける。「生活がんばり週間」後のアンケート結果を受けて、代表委員会を中心とした反省と改善の取り組みを継続する。

② 「いじめについて考える日」を学期に1回実施することで、いじめについてより深く考え意識できるようにする。また、友だちとお互いのよいところが発揮され、それを認め合える教育活動の実践を共有できる場を設け、必要に応じて教育課程に位置付け継続した取り組みになるようにする。

(様式例 2)

大阪市立橘小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 33%以上にする。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。 ○校内アンケートにおいて、「健康的な生活を心がけている」と肯定的に回答する児童を 93%以上にする。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【4 誰一人取り残さない学力の向上】 ○毎日の授業や教育活動で、一人一人が自分の考えを発表したり、他の人の考えを聞いたりして、意見を交流する時間を設定する。(ペア学習、グループ学習など) ○児童一人一人の学力や実態に応じたデジタルドリル(navima)の活用を習慣づけ、基礎・基本の定着を図る。	B
指標 ○校内アンケートにおいて「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の児童の最も肯定的な回答の割合を 50%以上にする。 ○児童がデジタルドリルを週 15 分以上取り組めるようにする。	
取組内容② 【5 健やかな体の育成】 ○体育の授業や体育的行事や取組等で、児童の体力の向上を図る。特に走力を高める。	B
指標 ○令和 6 年度の校内の運動能力調査において、3 年～6 年の 50m 走の記録を前年度より 1 ポイント向上させる。 ※R5 50m 走：男子(橘小 9.53 秒／市 9.50 秒) 女子(橘小 10.9 秒／市 9.74 秒)	

取組内容③【5 健やかな体の育成】 ○バランスの良い食事を心がけて、好き嫌いなく食べようとする意識を高めるように各学級での給食指導や栄養指導を充実する。	B
指標 ○校内アンケートにおいて「(給食を) 好き嫌いなく食べている」の児童の肯定的な回答の割合を 50%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 毎日の授業で意見の発表や交流する時間を確保し、友達の見聞を聞き、自分の意見を持つことができるようにしている。しかし、前期の校内アンケートでは最も肯定的な回答が 46%となっており、目標を下回っている。自分の考えを深めたり、広げたりすることにまでは十分に至っていない。毎時間の授業で時間を確保していても、発言している児童に偏りが見られる。</p> <p>全学年が navima を取り組む時間を随時確保することができている。また 9 月からはタブレットの持ち帰りを行い、家庭学習においても navima に取り組む時間を確保することができている。復習としてや、テスト前の確認等で活用することで、基礎基本の定着を図ることができている。しかしどの学年も空いた時間に取り組んでいるため、毎回決まった時間に行うことが難しく、週ごとにばらつきが見られる。</p> <p>② 8・9 月は気温が高く体育の授業も制限がかかり走の運動をすることができなかった。しかし、各学年マット運動・跳び箱等、体の使い方等の基礎的な運動を身に着けることができた。また、スモールステップを意識しながら進めることで運動に親しみを持つことができた。学年に応じて動画視聴で運動のコツを学習したり、遅延ソフトで自身の動きを確認したりしながらタブレットを有効に活用することができた。</p> <p>③ 毎日の給食指導や学年に応じた栄養教諭による食育指導をすることができている。また、苦手な食べ物も自分で決めた量を食べることで苦手なものを少しずつ減らしていくよう指導することができた。給食委員会の放送や掲示物、調理員室の掲示など食に対して興味や感謝を意識することができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>① 交流する時間は引き続き確保していく。意見を持つことが難しい児童や伝えることが苦手な児童への手立てを工夫していく。学級で発言・交流ができている児童の実態を把握し、全体が意見を持てるようにしていく。</p> <p>学習用端末の持ち帰り取り組みは継続していく。また、デジタルドリルの使い方（復習や予習など）学校生活の中で計画的にデジタルドリルを活用していくことができるように、検討し実施していく。</p> <p>② 「かけ足週間」を実施し、走力をつけるとともに、各学年の取り組みを部会から学年へと共有できるようにしていく。また、走力を高める運動や授業づくりを体育実技研修や部会を通して共有していく。年度末には 50M 走の記録とり取り組みの成果と課題を明らかにする。</p> <p>③ 苦手な食材も少しは食べられるよう、日々の給食指導を今後も続ける。</p>	

(様式例 2)

大阪市立橋小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日 50% 以上にする。(「学習者用端末 月間活用率表」より) ○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 50% 以上にする。 ○令和 5 年度の保護者アンケートの「学校は保護者や地域の願いを受け止めて教育活動を進めている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、90% 以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6 教育 D X の推進】 ・スクールライフ機能を活用し、児童が毎日「心の天気」を入力したり、教職員がミマモルメの「欠席連絡」を日々確認したりすることで、毎日の児童の体調や気持ちについて共通理解し、早期に対応できるようにする。 ・学習者用端末を活用した個人学習（デジタルドリル navima や家庭学習を含む）を週 1 回以上実施する。 ・各学年の児童の実態に応じて、プログラミング学習に年に 1 回以上取り組み、プログラミングに対する意欲を伸ばす。 ・本校の年間計画に沿って、I C T 機器を活用した学習を週 1 回以上実施する。	B
指標 ・令和 6 年度の校内調査で「学校活動の中で学習者用端末を使用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 70% 以上にする。	
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・スクールサポートスタッフを有効に活用できるよう業務依頼を計画的に行い、職員の負担を減らす。 ・「教員としての資質の向上に関する指標」に基づいた、キャリアステージに対応した研修を体系的・計画的に実施する。 ・教員の長時間勤務の解消を通じ、教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができる環境の実現をめざす。	B

指標	・先進的な取組や教職員の希望に応じて全体研修、メンター研修を実施する。(年間全体研修9回、メンター研修5回)	B
	・会議のスマート化を図ったり、会議の終了時刻を明示することで各自が計画的に仕事を進めたりすることができるようにする。	
	・「ゆとりの日」を月1回以上設定し、退勤時刻を17時にする。学校閉庁日については、夏季休業日期间中は4日以上、冬季休業日期间中は3日以上設定する。	
取組内容③【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】	・保護者や地域と連携した学習活動を各学年で1単元以上行う。 (1年：春(秋)さがし／2年：町たんけん／3年：福祉／4年：防災／5年：仕事(職業)／6年：歴史)	
	・保護者や地域と連携した児童会行事を年で1回以上行う。(「たちばなまつり」)	
指標	・学校ホームページやミマモルメを活用することで、令和6年度の保護者アンケートの「学校は教育内容を家庭に発信する機会をよく設けている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、昨年度より1ポイント増加させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
① ICT 機器を使った授業は各学年において毎日行っている。スクールライフ機能で「心の天気」を入力することは朝の放送でも呼びかけ、入力する児童が増えている。(4月平均36%→9月平均63%)しかし、学年・学級により違いが大きく、登校が遅い児童は入力することが難しい。デジタルドリルの活用については、週1回を目標に取り組んでいる。また、navima 以外のデジタル教材の活用、調べ学習、発表において学習者用端末を積極的に活用している。プログラミング学習では、本校の年間計画に沿って行っている。また、「コーディロッキー」や「ペッパーくん」を使用したプログラミング学習も行った。		
② 様々な業務を計画的にスクールサポーターに担ってもらうことにより、多くの教職員の業務負担軽減、児童の見守りなどから児童・保護者の「安心・安全」や教職員が児童に関わる時間の確保につながっている。		
教科研修や新しくスタートする総合的読解力研修会だけでなく、ICT・特別支援教育・外国人教育、防犯などの全体研修会またはメンター研修会を計画的に実施している。		
会議内容の精選と討議内容の焦点化による会議のスマート化や会議の終了時刻の明示により、放課後の時間を確保することができている。一方で、会議や研修を進める側の準備計画不足(各議題の時間配分)や会議や研修への受け身な姿勢(連絡掲示板の未確認や事前に資料を読み込んでいない等)により、時間の超過や内容の伝達共有の不十分さを招いている。		
月1回以上の定時退勤「ゆとりの日」を行事予定にあらかじめ設定や、学校閉庁日(夏季休業日期间中は4日間)の拡充により、長時間勤務の削減が進んでいる。		
③ 年間指導計画に沿いながら、保護者や地域と連携した学習活動を各学年で計画・実施している。さらに、このような学校の取組を随時、学校ホームページで公開し、本校の様子を家庭・地域に発信している。その結果、ホームページの1日の閲覧数は着実に増えている。(R5 55→R6.10110)		
また、ミマモルメの「欠席連絡」の活用やスクールライフ機能を活用した「心の天気」の		

入力を進めてきたが、ミマモルメや電話による欠席連絡がない家庭が未だ多く、「心の天気」の活用には至っていない。

保護者や地域と連携した学校行事として、10月末に防災学習を実施する。

次年度への改善点

① 心の天気の入力状況は4月では36%だが、9月では63%まで伸びている。しかし、入力状況には課題があるため、放送だけでなく、掲示物を使ったり強化週間を設けたりするなど、さらなる呼びかけが必要である。さらに、児童の入力したものをこまめにフィードバックするなど活用していく。

また、ミマモルメの個人連絡機能を活用し、家庭との連絡を取ることができるようにする。

② 今後の研修も計画的に行っていく。また年度末には、これまでの教員研修会を振り返る。また、計画的に見通しをもって学習や生活指導の計画を立てたり、児童の交流や早期解決に向けた共通理解を図ったりできる場に「学年研修会」「学年打合せ」がなるように具体的な例を示し、機能化を図っていく。

③ 今回初めて、紙ではなくメールによるアンケート調査を行ったが、回答率7割にとどまったため、次回は回答期間をのばしたり呼びかけたりするなどの工夫を図り、より多くの保護者の声を反映できるようにする。